

# 雅楽だより

## 《目次》

- 楽師のつぶやき
- 序破急と大曲
- 「芝祐靖」という「できごと」
- 笙の袋の製作に関して
- 催馬楽席田大合唱

池邊五郎  
遠藤 徹  
寺内直子  
塚本增能  
柴垣治樹

1 現代語訳『楽家録』(8)  
2 上牧・鶴殿ヨシ原  
3 情報欄  
4 計報 雅楽写真家・林陽一氏逝去  
5

遠藤 徹  
6  
8  
9  
11

第45号  
発行

2016(平成28)年4月  
雅楽協議会

## 楽師のつぶやき

宮内庁式部職楽部首席楽長

池邊 五郎

(2月27日 国立劇場雅楽公演)

『舞楽』プログラムより)

国立劇場での公演は、管絃と舞楽を隔年で奏させていただいており、今回は舞楽をお楽しみいただきます。本日は前半に『振鉾』と右方の『長保樂』、後半で左方の大曲『春鶯囀』一具をご覧いただきます。

まず『振鉾』ですが、舞楽会の始めに奏するのを例としていて、一節目を横笛の伴奏で左方の舞、二節目は高麗笛による伴奏で右方の舞となります。三節は『合鉾』といつて左右の舞人が同時に舞います。今回の公演では一節二節を上演します。『振鉾』というと、数年前に奈良の大極殿で舞つた時の失敗を思ひだします。その時は三節まで舞があり、私が左方の舞人として一節を舞わせていただき二節が終つて三節を舞い始めたところ、鉾を振つた時に右方の舞人の袍の袖の中に入つてしまつたのです。一瞬、慌てましたが、大事には至らずにホツとしました。樂部では装束を着けずに練習を行うので、微妙な位置のズレを起こしてしまつたのです。

次に『長保樂』ですが、もともと長保年間

(999~1004年に)『保曽呂久世利』を破の曲とし、『加利夜須』を急の曲として一曲にまとめられたので、名付けられたよう

です。破は高麗壺越調(唐樂でいう平調)の曲ですが、急は「下無」の音が基準になるので加利夜須の音取(高麗平調の音取ともいう)を吹きます。

若い頃、「自分の管も満足に吹けないので、なんでも他の管を触っているのだ」と先輩たちに言われました。昔から樂部には持ち管以外は手を出さない、そんな決まりがあるため、自分の担当する管(持ち管・私であれば簞築)以外のことは詳しくは分かりません。

同じように、舞も私は左方舞を担当していますので右方舞のことは詳しくわかりませんが、左方舞と右方舞の一番の違いとしては、左方は曲に合わせて作舞してるので舞人は唱歌をしながら舞いますが、右方の舞は打物に合わせて舞うので、基本的にはリズムを取りながら稽古しているようです。

「颯踏」「入破」は早八拍子と早六拍子の曲で、拍子が早い分、少し舞いやすいかなと思いましたが、舞を秘す曲だけにそんなわけにはいかなくて、舞い難い手(所作)が出て来ます。

で舞う事が多く、前後に舞人がいるので、で良いかなと思つております)とあります。だからでしょうか、現在は『皇帝』と『団乱旋』は絃類を、『春鶯囀』は舞を、『蘇合香』は鼓類を秘す(「秘す」とは「難しいぞ」という事だと私は思つております)とあります。

『樂家録』によると、『皇帝』は管を、『団乱旋』は絃類を、『春鶯囀』は舞を、『蘇合香』は鼓類を秘す(「秘す」とは「難しいぞ」という事だと私は思つております)とあります。だからでしょうか、現在は『皇帝』と『団乱旋』が絶えてしまつてるので、大変残念に思います。前回の『春鶯囀』の公演の時も一年程前から調べ始め、半年前から舞の練習を始めた記憶があります。「遊声」で登台し、「序」これがなかなかの難曲で、拍子十六と長いので、旋律のどこで舞を合わせるか、唱歌をしながら体に叩き込むまで大変だった事を思い出します。



池邊五郎氏 写真 林陽一

次に「鳥声」です  
が、この曲も序吹と  
なります。ただ、序

よりも短めに太鼓が  
入るので、舞を合わ  
せるのが少し楽な感  
じでした。最後の、

「急声」は、三管同  
時に入るので曲は入破を吹きます。テンポが  
だいぶ早くなるので、舞の手は全体的にゆつ  
くりな感じに作舞されています。曲の終りに  
序吹となり、調子で入手を舞い、退場して終  
了となります。



「簫篥」

印度舞踊をされている方が「舞を観て思つ  
たのですが、舞われている方は、意味を分か  
つて舞われているのですか」と聞かれたそ  
です。

舞楽でいえば、私が教わった時代には、ど  
のように意味の手なんか伝承がなく、分から  
ずに舞っています。しかし、もともとは舞楽  
のそれぞれの手には意味があり、フラダンス  
ではありませんが、ストーリーを作れるのか  
も知れません。

また、四年程前のヨーロッパ公演の折にイ  
ンド大使夫人が「私が幼い時に聞いていた音  
楽が雅楽にそつくりです」と仰いました。日  
本へは中国大陸や朝鮮半島から伝わってきた  
雅楽ですが、その源をたどると広く、  
アジア全体の音楽なのではないかと感じまし  
た。今度ぜひインドに行き、雅楽とのつなが  
りをこの目で見聞きして来たいと思います。

雅楽の曲目には大曲・中曲・小曲の区別が  
ある。大曲は最も規模が大きい曲群で、伝承  
体系の中で特に重んじられてきた。現行の曲  
目では、「春鶯囀」「蘇合香」「万秋樂」「皇鞞」

の四曲が大曲に位置づけられているが、「万  
秋樂」「皇鞞」は「皇帝破陣樂」「團亂旋」の伝  
承が絶えたために新たに大曲になったもので  
あり、古くは「皇帝破陣樂」「團亂旋」「蘇合香」  
「春鶯囀」の四曲を「四箇大曲」と称した。

大曲の区分は、雅楽の一大源泉である唐代  
中国の樂舞に由来すると考えられる。唐代中  
國は、樂舞が高度な発達を見せた時代であり  
祭祀樂としての本来の雅樂から、宮廷宴饗樂  
(燕樂)に至るまで様々な樂舞があつたが、  
これらは大曲・次曲・小曲などに分けられて  
いた。大曲、小曲などの区別は樂曲の規模で  
あるとともに難易度も異なつていてらしく、  
『唐六典』によると教訓に要する期間は、燕樂  
の一である清樂では大曲が六十日間、小曲は  
十日間、祭祀樂の雅樂では大曲が三十日間、  
小曲は二十日間であつたという。

唐代の大曲は形式も明らかにされている。  
燕樂の大曲は一般に散序、中序、破の三部分  
で構成され、散序は器樂を主体にした自由リ  
ズムの樂章で歌や舞は無く、中序は歌を主体  
とした樂章で舞はあるものと無いものがあつ  
た。破は舞を主にした樂章で、入破、虚催、  
衰遍、実催、衰遍、勧拍、殺衰などに細分さ  
れ、拍子が多彩であつた(楊蔭瀏『中国古代  
音樂史稿』人民音樂出版社)。

## 序破急と大曲

東京学芸大学教授

遠藤徹

衰遍、実催、衰遍、勧拍、殺衰などに細分さ  
れ、拍子が多彩であつた(楊蔭瀏『中国古代  
音樂史稿』人民音樂出版社)

日本では中序が削除  
されるか序に包含され  
た一方で、破の末の早  
いテンポの部分が独立  
し(あるいは新たに付  
加され)、急となつたと  
みられるのである。中  
序が失われたのは、中  
序が歌を主にした樂章  
であったことと関係す

るのである。唐樂に付隨する歌は早い時期  
に失われたからである。もつとも大曲には中  
序の名残が見られるものもある。中序は自由  
リズムではなく、拍節のあるリズムで奏した  
ことが知られており、拍節的リズムで奏する  
「團亂旋」の序二・三帖や「春鶯囀」の颶踏  
などは元来は中序であつた可能性が考えられ  
る。

「團亂旋」の序二・三帖や「春鶯囀」の颶踏  
などは元来は中序であつた可能性が考えられ  
る。

唐代の大曲	大曲	中曲		
散序	皇帝破陣樂 遊声	團亂旋	春鶯囀 遊声	五常樂
中序	序一帖	序一帖	序	序
破	破一帖	入破一帖	入破	破
(入破)	二帖	二帖		
(虚催)	三帖			
(衰遍)	四帖			
(実催)				
(衰遍)	破五帖	颶踏一帖	颶踏	
(勧拍)	六帖	二帖		
(殺衰)				

\*「皇帝破陣樂」「團亂旋」は『教訓抄』による。

るのである。古楽書にはこれらを中序と記しているものも存する。「五常楽」の詠も元来は歌があつたので（本日の伶楽舎第十二回公演では再興上演される）、規模は異なるが中序に類するのかも知れない。歌が無くなつた一方で、日本では序にも舞が入るようになつた。そのため器樂→歌→舞という分かりやすい変化が無くなり、もっぱら緩→急を基調にした広義のリズムの漸次的变化の作り方に意が注がれることになった。

一般に序・破・急の序は、自由リズム（序吹）、破・急は拍節的リズム（樂吹）で奏し、破は延拍子（ $8/4$ または $4/2$ に類似した拍子）、急は早拍子（ $4/4$ または $2/2$ に類似した拍子）となることが多い。「五常楽」はこの定型にあてはまる。

しかし大曲はこうした通常の序破急の定型に收まりきらない。例えば「団乱旋」では前述のとおり序の二、三帖が拍節的リズムについており、入破につづく颶踏では再び自由リズムの序吹になる。さらに細かく見ると、入破も急声も末の一定の長さが序吹に変わる。すなわち大曲では緩徐な自由リズム→拍節的リズム（延→早）といつた一方向の流れの中に、拍節的リズム→自由リズムの逆行する流れや、自由リズム→拍節的リズムの変化が多く組み込まれることにより、拍子の構成がより入り組んだものになつてゐるのである。大曲がこのような構成となつてゐるのは唐代の燕楽大曲の様式が部分的にとじめられたためであろう。

雅楽の序破急はおそらく燕楽大曲の長大なものである。

構成の中から余分なものを削ぎ落とし、前述のリズムの変化を基調とした時間の流れを探り出すことで具体化したものと思われるが、この構成感は日本人古來の感性に合致し、雅樂曲の定型は序破急と称されるようになつた。一方、大曲には序破急に要約される以前の姿が部分的にとじめられたことによつて、序破急で単純に割り切れない構成となり、それがかえつて大曲の重みや風格を生み出している。

（伶楽舎創立30周年記念 伶楽舎第十二回雅樂演奏会 2015年12月21日プログラムより）

### 伶楽舎三〇周年に寄せて

「芝祐靖」という「できごと」

神戸大学教授 寺内 直子

伶楽舎は、現代日本における最も優れた雅樂の演奏団体の一つである。伶楽舎の名称は古代中国の伝説の音楽家「伶倫」が「樂遊」するさまに想い馳せてつけられた「伶倫樂遊舎」を簡略にしたものである。『呂氏春秋』（仲夏紀、古樂）によると、伶倫は嶰谿谷の竹で笛を作り、雌雄の鳳凰の鳴き声からそれぞれ六つずつ音を作り、十二律を整えた。この深遠壮大な中国の故事に由来する名称を冠した雅樂団体は、雅樂の伝統的なレパートリーの演奏に常に高い完成度を示すと同時に、現代作曲家の新作にも果敢に挑み、雅樂のさまざまな魅力と可能性を世に問うてきた。伶

楽舎は現在、自主公演のほか、しばしば依頼招待による演奏を行い、国内外で盛んに活動している。

この団体をつくった人物の名を、芝祐靖といふ。八〇〇年以上続く雅樂の家系に生まれ幼少から雅樂を学び、一九五八年に宮内庁楽部の楽師となつた。しかし、一九八四年に退職、翌年伶楽舎を創設、フリーライブの音樂家として雅樂の発展に尽くすことになる。二〇〇三年には日本芸術院会員となつた。

芝師の肩書きを「雅樂演奏家」とするのは正確ではない。なぜなら、演奏のほかに、廃絶曲の復元研究と論文の執筆、復曲、新作雅樂の作曲、若手演奏家の指導、さらに、あまり知られていないが、西洋樂器のための作曲（含、オーケストラ作品）など、きわめて多方面に才能を發揮しているからである。その活動は、傘寿を迎えた二〇一五年現在、益々意欲的である。

一九七〇年、国立劇場が初めて雅樂器のための新作（『昭和天平樂』）を簗敏郎に委嘱した時、当時演奏可能な団体は宮内庁樂部だけであった。国立劇場からの演奏依頼を受けるか否かについて、樂部の中で意見が拮抗し、當時の安倍季巖樂長の英断で演奏が決まったと聞く。もし、この英断がなかつたら、『昭和天平樂』は世に出なかつただろう。武満徹の『秋庭歌』は国立劇場の第二弾の委嘱作品で（一九七三年）、同じく宮内庁樂部によって初演された。それから約三〇年後の二〇〇二年、伶楽舎演奏の『秋庭歌』のCDは、

その芝師の大きな業績の一つが、伶楽舎の創設（一九八五年）である。雅樂の樂器を演奏する優れたソリストは当時すでに何人もいた。しかし、質の高い「合奏」をする団体をつくることは、ある意味でソリストの養成以上に時間がかかる。伶楽舎は一夜にして成ったわけではない。その背後には芝師の長い年月をかけた人材育成の努力があった。現在伶楽舎は、古典、新作ともによく練られ、研ぎすまされた演奏を聴かせてくれる。伶楽舎の存在は、いまや宮内庁のそとも上質なプロの演奏団体が存在することを意味する。宮内庁樂部は、これからも皇室儀礼の担い手として唯一無二の権威であり、雅樂の伝承や技の源泉であり続けることは間違いない。しかし彼らは複数の選択肢を持つ時代を迎えたのである。

芝師は、戦後の雅樂のさまざまマーブメントのほとんどすべてに、大なり小なり関わっている。芝師の軌跡をたどることは、そのまま雅樂の現代史を振り返ることになるのである。その意味で、芝師の業績は、すでに個人の活動を越え、時代を画する一つの「できごと」の様相を呈している。今日、皇室や寺社の伝統儀礼の中では、雅樂の古典的レパートリー、演奏様式はなお脈々と維持、継承されている。しかし、芝師の活動は、さまざま点でそれを相対化し、新たな脈絡と様式を創出することにより、雅樂伝承全体に豊かさを加えたのである。

積極的に新作に取り組む団体として、伶樂舎は内外から注目されている。新しい作品も、演奏家がいなければこの世に響かない。難しい作品ほど優れた演奏家を必要とする。

伶楽舎はまた、コンサートで自ら作曲家に新作を委嘱し、演奏することがしばしばある。これは、多様な新作雅楽を世に出すことが自らの使命の一つであるとよく認識していることを示す。雅楽の世界に、演奏家と新作品を直結させるシステムを構築したのも、伶楽舎

の大きな功績の一つであろう。  
かくして、今日、雅楽のレパートリーは從  
来なかつた多様性を獲得した。また、演奏団

方、演奏会や視聴覚資料などによる聴取機会の増大により、雅楽の視聴者層は確実に広がっている。このような複数の選択肢の時代は見方を変えると、作品、演奏家にとつて淘汰の時代とも言える。どれが面白いのか、よくできているのか、誰が上手いのか…。これらを判断するのは私たち聴衆にほかならない。「芝祐靖」という「できごと」が拓いた多様な

雅楽の世界を、私たちはどう逍遙し、評価しあるいは行動するのか。私たち自身の「聴く耳」が問われる時代なのである。

(伶楽舎創立三〇周年記念 伶楽舎第十二回  
雅楽演奏会 2015年12月21日 プログラム  
より)

笙の袋の製作に関する

## (雅楽器製作の名人岡田清治氏談他)

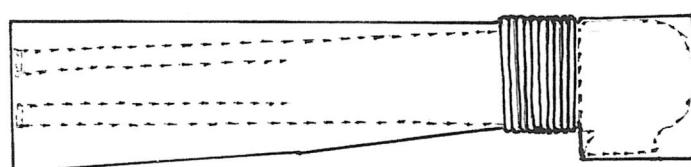
将来雅楽の笙を是非習いたいと私が思つたのは、旧満州国の片田舎の小学四年生の時、平安時代に新羅三郎義光が豊原時秋に笙の秘

曲を伝授した話を本で読んだからであつた。其の後帰国した郷里の石川県では雅楽に全く縁がなく、後年大阪に移った時、世にも不思議な経緯<sup>いきさつ</sup>が重なつて笙を吹く人に出逢つたのは実に二十年も後であった。

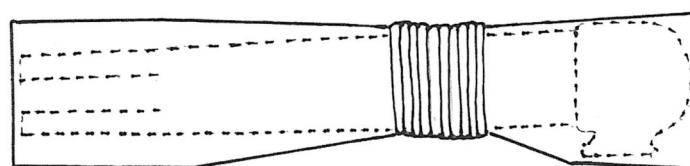
自分の笙を求める為に、大阪の或る古道具屋で尋ねると、「笙は無いが部品ならある」と云うので見せて貰つたら、全面に薄の蒔絵を施した笙の頭かしらであつた。他に簃や一部の金具のない、泥を被つた様に汚れた管がばらばらに散らかっていた。幸い管は数えたら十七本全部あつたので買って帰り、当時名人と云われていた京都の岡田清治氏の所へ持つて行つた。

すると氏は「目見るなり「これは幕末の頃の山田という人が作った笙だ。こんな良い笙が良く手に入つたな」と銘もないのに断言し感心して居られた。

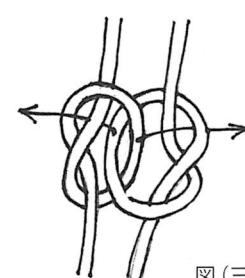
色々話をしている内に、私の郷里が氏の出身地の隣村（現在は合併により同一市内）である事が判り、その後はすっかり打ち解けて何時も仕事場へ招かれ、色々と教えて頂いたり、氏の龍笛と盤渉調の越殿楽を合奏して頂く事もあったが、氏は當時既に八十歳であつたが、



四 (一)



圖（一）



四

た。

簀一式や銀金具が出来上がつたので、笙を風呂敷に巻いて持ち帰つたが、其の時笙の袋を作る上の注意点を教えて頂いたので、紹介

れた場合は紐を取り付ける「耳」を正しい位置に移し変えなければならない。

りも長い場合は袋の先を切り詰めればよい。袋の紐は紫色の絹の組紐で、長さ一尺二寸（約一メートル八十八センチ）を二重に折り、端の所を総結<sup>あわまきむすび</sup>にする。その作り方は図（三）を参照<sup>さるべ</sup>。

ざれたい 端の  
袋に竿を收め

たら図(四)のよう、総角結の向かつて右側の輪の部分を、巻いてある紐の左端二本の下へくぐらせてから房を下方に引張れば、紐全体が巻き締められ

以上が岡田氏より教えて頂いた、笙の袋の作り方の内容であ

尚、私の感じた点を若干補足すれば、最近一般に売られている組紐は化学繊維製の物が多くて滑り易いから、使用中に総角の結び目が崩れない様に同色の糸で要所を縫い止めておく必要がある。

序に若干説明する『雅楽執業抄』によれば、袋から笙を取り出す時は袋のまま管の中央を右手で持ち上げ、左の掌（たなごころ）に乗せて紐を解きながらぐるぐると右手の四本の指に巻きつける。次に輪になつた紐を、笙を持った左手の小指に掛け、次に右手を袋の中に差込んで笙の干と比の管の間に人差指を挿入（笙を袋に入れる時も同様）、笙の頭を袋より引き出す。従つて右手が袋の中の頭を取り出し易い様に袋の幅は若干大き目にする必要がある。

此の時迄左手は袋の中央を持ったままである。

袋の末を持ち上げて、中の笙を下方に振り出す様な不作法な事は、決してしてはいけない。

笙を取り出したら袋を座前に置き、その中央付近に紐を輪のまま載せて、その上に枕を袋の幅方向に置いてから、袋の末（下端）を持ち上げながら二重に折重ねる。この上に笙を横たえて置くのであるが、笙の頭は向かって右側、吹き口は必ず自分の側になる様に置く。

座樂の時や席の前に楽器台がある場合は、必ず笙を袋のまま持参し、着座してから取り出して袋の上に置くのである。笙を決して床や台の上に直接置いてはいけない。

（追記）

序に若干説明すると「雅楽執業抄」によれば、袋から笙を取り出す時は袋のまま管の中央を右手で持ち上げ、左の掌（たなごころ）に乗せて紐を解きながらぐるぐると右手の四本の指に巻きつける。次に輪になつた紐を、笙を持った左手の小指に掛け、次に右手を袋の中に差込んで笙の千と比の管の間に人差指を挿入（笙を袋に入れる時も同様）、笙の頭を取り出し易い様に袋の幅は若干大き目に作る必要がある。

【催馬樂席田大合唱】

主韻会 柴垣治樹

袋の末を持ち上げて、中の笙を下方に振り出す様な不作法な事は、決してしてはいけない。  
笙を取り出したら袋を座前に置き、その中央付近に紐を輪のまま載せて、その上に枕を袋の幅方向に置いてから、袋の末（下端）を持ち上げながら二重に折重ねる。この上に笙を横たえて置くのであるが、笙の頭は向かって右側、吹き口は必ず自分の側になる様に置く。

座樂の時や席の前に楽器台がある場合は、必ず笙を袋のまま持参し、着座してから取り出して袋の上に置くのである。笙を決して床や台の上に直接置いてはいけない。

そんな時に、西尾市文化事業、第三回雅楽祭演奏会の時に豊英秋先生とお話をさせて頂き、「いい事だね、期待してるよ」と御言葉を頂き、気持ちが固まりました。

岐阜県の本巣市に働きかけるために、様々な方に席田プロジェクトのメールを岐阜の生徒さんから送らせて頂いて協力を求めた所、一人の方が御協力頂けることになり、話が一気に現実的な事になつてきました。

A black and white photograph capturing a moment of a school performance or assembly. In the center, an elderly man dressed in traditional Japanese attire, including a dark cap and a light-colored robe over a patterned underlayer, sits cross-legged. He holds a small, round, decorated object, possibly a gong or a bell, in his hands. Surrounding him are approximately ten young children, all wearing matching school uniforms consisting of light-colored jackets over dark trousers. The children are singing, with their mouths open and looking towards the camera or stage. To the left, a wooden railing with a decorative top rail is visible. In the background, a large, ornate lantern hangs from a structure, adding to the formal atmosphere of the event.

豊英秋 元宮内庁楽部首席楽長とともに催馬楽 席田を謡う席田小学校生徒達 写真提供 川口真平

談を受けた。私はプラスチック関係の技術者であつたから「歯形を採る樹脂なら約三分間で固まるので便利」と申し上げて見本を差し上げたが、それから三年以内で亡くなられたので、果たして型を利用して便利に窓を作る事に成功されたかどうかは不明である。氏との御付き合いは短期間ではあつたが、私にとっては誠に有意義で貴重な一時であつた。

そんな時にタイミング良く本巣市内に、「外山街づくり委員会雅楽部」が出来、岐阜の生徒さんに講師をお願いし、委員会に所属する子供たちに迦陵頻かりょうひんの舞、大人には席田の歌を稽古して頂きました。1月30日の演奏会に出演して頂く事も決まり、地域の方が関わる演奏会になりました。

そして、今回一番の要、「席田小学校」。もちろん最初は催馬楽席田つて何ですか？からのスタートでした。説明をさせて頂き、出演が決まりました。



1月30日、岐阜県・本巣市民文化ホールにて「本巣市席田健都1300年記念事業・催馬楽《席田》を謡う」の中での特別演奏「催馬楽席田大合唱」  
拍子・豊 英秋先生、席田小学校五年生59名、付物の先生方、外山街づくり委員会雅樂部の9人、主韻会(楽琵琶、楽箏、付歌)による演奏。

写真提供 川口真平

## ～席田小学校五年生の流れ～

### 一学期

6月13日、席田小学校体育館に豊英秋先生をお招きさせて頂き、プレゼン雅楽演奏会を開きました。もちろん席田は一段まで歌い伴奏は和琴。そして豊英秋先生が五年生59人に催馬樂席田の稽古。催馬樂席田の逆輸入です。涙が出ました。

### 二学期

2学期が始まりここからは私の責任です。私が席田小学校に通い、催馬樂席田を伝えます。最初の授業はよく覚えています。五年生は、周りの大人から事の重みを感じる様になり、五年生からも何とも言えない硬さと緊張感が伝わってきました。まずは硬さを無くす作業をと思い、「催馬樂席田」ではなく君達の「御当地ソング席田」などと言つて席田の歌の授業は楽しいと思つてもらう様に心掛けました。私の稽古を映像化し担任の先生が私のいない時もしつかり練習して下さったおかげで、問題無く五年生は上達していきました。

3学期、この頃になるとメディアにも注目して頂いたり、「雅楽だより」に豊英秋先生が「席田物語」というタイトルで文章を書いて下さつたりして関係者が全体的に盛り上がり、楽しみと責任感が膨らんで来ました。

### ～演奏会当日～

そして1月30日、演奏会当日。舞台挨拶しリハーサル。管絃が終わり催馬樂席田大合唱のリハーサル。人数が多いので主に、出入り

を中心に確認し、一度通して歌つて席田リハーサル終了。舞楽のリハーサルも無事に終りました。

午後2時開演。管絃の演奏が終わり「特別演奏、催馬樂席田大合唱」に向けて舞台転換し、拍子の豊英秋先生を先頭に、席田小学校五年生59名、付物の先生、外山街づくり委員会雅楽部の9人、主韻会出演者（楽琵琶、樂爭、付歌）が舞台上に入場し配置に着きました。

私は舞楽八仙の舞人だったので、舞台裏で着替えながらモニターで鑑賞。双調音取が終わり、空拍子、豊英秋先生が歌い出し付所、歌74人、伴奏7人による催馬樂席田大合唱が始まりました。

宮中の内で催馬樂席田が作られ、千年以上楽家で受け継がれ、明治撰定譜の催馬樂六曲の中に残り、現在も宮内庁式部職楽部で正式伝承され、楽家の豊英秋先生の拍子に合わせて地元の方々が歌う。歴史的瞬間でした。演奏が終わり、五年生が舞台裏に歩いて来る姿は、達成感に満ち溢れていました。

演奏会が終わり、口笛でお客様を見送りさせて頂きました。お客様の大半は地元の方で雅楽を知らない方ですが、満足感が伝わって来ました。雅楽が持つている可能性を改めて感じさせて頂いた演奏会になりました。

### ～演奏会後～

今回の席田プロジェクトを通して、伝統の素晴らしさと伝承していく大切さを改めて学びました。

演奏会が終わって数日が経ち、今全ての流れを思い返した時、様々な感動、大変な事、気遣い、皆さんの成長など、沢山の思い出があります。私の中で一番気持ちに残っている事は豊英秋先生の最初の御言葉、「いい事だね、期待してるよ」です。

最後に今回の流れはゴールではなく、スタートだと思います。継続していく事は始める事より大変ですが、本巣市役所や席田小学校からは前向きな御言葉を頂いております。今後も「席田の地」で夢を見させて頂ける事を雅楽愛好者として幸せに感じます。

今後も「席田の地」で夢を見させて頂ける事を雅楽愛好者として幸せに感じます。

嘉辰

### 現代語訳『樂家錄』(8)

監修 東京学芸大学教授 遠藤 徹

#### 十三 三管総論(P457)

##### 第二十九 郡曲「朗詠」の

###### 付け物の大意「概略」(P475)

(この章の中では調名を以つて律名とする。  
(ここでは) ただ旧例に従い改めなかつた。)

そもそも郢曲というものは、朗詠の詩を歌うものをいう。近代に至るまで伝えられている

曲は四曲である。この曲(朗詠)は、御遊のときに、最終曲の前に歌う。その詞は一つで

あるが二返あるいは三返(繰り返して)これを歌う。(但し、繰り返す毎に発声の人は入れ変わる。人がいないときは、一人で何返も歌う。) 管楽器の附物の方法の概略を述べる

と、商、角音より徵音に移り、そして後宮音に移る。(およそ宮商徵の三音を主とし、他

の律は皆、文(かざり)とするのみである。宮音はその用いているところの楽調(調)によつて決まる。例えば壺越調の曲では、宮は壺越、商は平調、角は下無徵は黄鐘、羽は盤渉となる。他の調はこれに準じて理解しなさい)一曲の終わりは、宮音で止める。これは決まりである。絃と管は助音と同じよう附ける。(箏、笙、簫篥、笛は各一管で、微音に附ける。古くは琵琶を用いたが近代は用いない。和琴については、いまだ旧例を検討していない。)

宮音はその用いているところの楽調(調)によつて決まる。例えば壺越調の曲では、宮は壺越、商は平調、角は下無徵は黄鐘、羽は盤渉となる。他の調はこれに準じて理解しなさい)一曲の終わりは、宮音で止める。これは決まりである。絃と管は助音と同じよう附ける。(箏、笙、簫篥、笛は各一管で、微音に附ける。古くは琵琶を用いたが近代は用いない。和琴については、いまだ旧例を検討していない。)

宮音はその用いているところの楽調(調)によつて決まる。例えば壺越調の曲では、宮は壺越、商は平調、角は下無徵は黄鐘、羽は盤渉となる。他の調はこれに準じて理解しなさい)一曲の終わりは、宮音で止める。これは決まりである。絃と管は助音と同じよう附ける。(箏、笙、簫篥、笛は各一管で、微音に附ける。古くは琵琶を用いたが近代は用いない。和琴については、いまだ旧例を検討していない。)

第一発声 令月(以下、附ける)

(商角より徵に移る)  
歎無極、萬歳千秋樂未央  
(以下、附ける。右に同じ)

第二発声 嘉辰令月  
(以下、附ける。右に同じ)

第三発声 歎無極(以下、附ける)  
萬歳千秋樂未央  
(商角より徵に移る)遲速同カラス  
(宮音)

第一発声 東岸西岸之柳(以下、附ける)  
(商角より徵に移る)

第二発声 南枝北枝之(以下、附ける)  
(但しこの上の字の末より附ける)

第三発声 開落(以下、附ける)  
(宮音)

梅(但しこの上の字の末より附ける)  
(但し、繰り返す毎に発声の人は入れ変わる。人がいないときは、一人で何回も歌う。) 管楽器の附物の方法の概略を述べる

と、商、角音より徵音に移り、そして後宮音に移る。(およそ宮商徵の三音を主とし、他

の律は皆、文(かざり)とするのみである。宮音はその用いているところの楽調(調)によつて決まる。例えば壺越調の曲では、宮は壺越、商は平調、角は下無徵は黄鐘、羽は盤渉となる。他の調はこれに準じて理解しなさい)一曲の終わりは、宮音で止める。これは決まりである。絃と管は助音と同じよう附ける。(箏、笙、簫篥、笛は各一管で、微音に附ける。古くは琵琶を用いたが近代は用いない。和琴については、いまだ旧例を検討していない。)



第三句の文 我一等興一衆一生  
第四句の文 皆一供成一佛一道

### 惣禮伽陀

- 句第一 如三世諸佛已上聲謂之句頭、第二句至于四句助音  
 句第二 說法之儀式自初句助音  
 句第三 我今亦如是是止管、蓋以商聲也  
 句第四 說無此二字管分別法此三字亦不附之

管聲の附け物の図

盤渉	黄鐘	双調	平調	毫越		
黄鐘より	双調より	下無より	毫越より	上無より		宮
盤渉に移り	黄鐘に移り	双調に移り	平調に移り	毫越に移り		微
下無に至る	平調に至る	毫越に至る	盤渉に至る	黄鐘に至る		商(半ばで止める声)
は神仙)						



左側 今年採取のヨシはシミが多く肝心なところが青い、  
右側 昨年のヨシ 写真提供 木村和男氏

### 上牧・鶴殿ヨシ原

#### 今年のヨシは昨年より悪い

昨年の今頃、「この冬（2015年1月）」は焼きの当日（2015年2月22日）朝9時過ぎの点火後、雨が降り出し11時には中止。来年（2016年1月）のヨシも心配」と今年のヨシを不安に思っていたのですが、やはり今年は昨年よりもさらに少なく、質も悪くなっています。

宮内庁楽部へ納めるヨシを刈り取っている上牧実行組合の木村和男さんは「今年のヨシは質が悪い。シミだらけで肝心なところに葉が残り、青いままでしづわが寄つていて」と。

木村さんの刈り取った今年のヨシと昨年のヨ

箆築に適したヨシがものすごく少なくて、採取する方たちも随分苦労されていた。ヨシ原でしわがある。今までしたら簾築用には使えないとして外されるだろうヨシがほとんど

シとを比べると、その違いが良くわかります（左上写真）。左側の今年のヨシは、右側の昨年のヨシに比べるとシミが多く、色もくすんでしわがある。今までしたら簾築用には使えないとして外されるだろうヨシがほとんど

のようです。

簆築のリードを40年以上に渡り製作を続けている名古屋の奥田貞二さんもまた、「今年のヨシは細くて、軽いものがほとんどで、今年は買つても使えないものばかりなので購入しませんでした。昨年は、2500本を注文しましたが、半分の1200本強の本数しか届かなかつた。それでもリードに使えるヨシはほとんどありませんでした」と語ります。

#### 10年前のヨシ原と

#### 昨年のヨシ原

左の写真は、10年前のヨシ原の写真です。青空を背景に、ヨシがのがやかに育つています。



つる草の無い10年前のヨシ原



2年前(2014年12月5日)のヨシ原、  
つる草に押し倒されるヨシ

なぜ このようになつてしまつたのか。  
今年、ヨシ原焼き雨で中止

その理由の一つに、ヨシ原焼きが出来ないこともあげられそうです。

2013年1月10日の第1回検討会で、鶴殿ヨシ原保存会会长の内本隆譲氏は、ヨシ原



2015年9月のヨシ原、ヨシの上につる草が覆い押し倒されていくヨシ





**雅樂写真家・林陽一氏 逝去**

訃報

林陽一氏（69歳）は、病氣療養中のと  
ころ1月7日、逝去されました。ご冥福  
をお祈り申し上げます。通夜は1月12日  
午後6時より、告別式は13日、午前11時  
30分より、川口市栄町葬祭センターでし  
めやかに執り行われました。



林陽一氏は、1946年（昭和21年）  
生まれ。

日本大学  
芸術学部  
写真学科  
卒業。父  
の林嘉吉  
に師事。

雅樂の写真を撮り続け、雅樂の写真展を

1998年「雅の美GAGAKU」（ド  
イツ、ケルン）、2002年に「雅樂in源  
氏物語」（東京・和光ホール）を開催。

1998年、天皇在位10年記念郵便切手  
を撮影。第54回「全国カレンダー展」日  
本印刷連合会長賞受賞。1999年に  
『雅樂への招待』（小学館）を発行。写  
真集を2002年に『雅樂一具』（東京  
書籍）、2006年に『楽家類聚』（東京  
書籍）、2009年に『宮中雅樂』（小学  
館）を発行。

林陽一氏の写真についてのお問合せは  
電話048-255-6188へ。  
ご家族の方が対応されます。

小調子明珠（復曲）

双調調子 柳花苑（内教坊の様式による推定復定）

復元 皇帝三台（雅樂纂の編成による推定復定）

元 海青樂 舞樂 承和樂 演奏 伶樂舍

問合せ TEL 03-5269-2011

春の舞樂会 六華苑

（三重県）

5月14日（土）午前10時、午後1時  
15日（日）午前10時、午後1時

舞樂 振鉢三節 春鶯囀 綾切 ほか

主催 多度雅樂会

問合せ TEL 0594-48-3484

御室流華道 献華式

（京都）

5月15日（日）午前11時～ 総本山 仁和寺

演奏 平安雅樂会

葬祭 上賀茂神社 下鴨神社

（京都）

5月15日（日）下鴨神社 東遊 午前11時40分

上賀茂神社 東遊 午後3時30分

演奏 平安雅樂会

5月21日（土）午前11時 京都市東部文化会館ホール

管絃 越天樂 陪臤 舞樂 胡蝶 納曾利

蘭陵王 散手

演奏 平安雅樂会

5月25日（水）午後2時 錦天満宮 春季大祭

管絃 盤渉調と太食調

（東京）

チケットプレゼント有り

5月28日（土）午後2時 4600円

青葉まつり 高野山

6月14日（火）丹生都比賣神社

舞樂 納曾利 蘭陵王

演奏 平安雅樂会

6月15日（水）午前10時 大阪樂所第34回雅樂演奏会

（大阪）

チケットプレゼント有り

7月2日（土）昼の部午後2時 夜の部午後6時開演

3000円（チケットぴあ・劇場窓口）

国文樂劇場（大阪）

舞樂 平調音取 皇臺急 越殿樂残樂三返

講師演奏 平調音取 陪臤

大坂樂所第34回雅樂演奏会

（大阪）

チケットプレゼント有り

（特別出演）元宮内庁式部職樂部首席樂長

安齋省吾師

主催 北之台雅樂アンサンブル

後援 在日ルクセンブルク大公國大使館

問合せ TEL 0470-62-6355

日本イタリア国交150周年記念

横浜能樂堂特別企画公演（神奈川）

「樂器は東へ西へ 琵琶とマンドリン」

（三重県）

5月22日（日）午後2時 6千円～4千円

横浜能樂堂

啄木（復曲／中村かほる）

草庵の謡（作曲／芝祐靖）

壇ノ浦（作詞／水木洋子、作曲／中村鶴城）

カント・ノスタルジコ・プリンセスながこ殿

下へ捧ぐ（作曲／ラファエレ・カラーチエ）

春雪のバラード（作曲／牧野由多可）

樂琵琶とマンドリンのための「緒合わせ」

（作曲／高橋久美子）

薩摩琵琶・中村かほる、箏築・中村仁美

演奏 楽琵琶・中村鶴城 マンドリン・ウエゴ・

オルランディ・ドリーナ・フラーティ ギタ

ー・石村隆行

主催 横浜能樂堂

薩摩琵琶・中村鶴城 マンドリン・ウエゴ・

オルランディ・ドリーナ・フラーティ ギタ

ー・石村隆行

主催 横浜能樂堂

薩摩琵琶・中村鶴城 マンドリン・ウエゴ・

オルランディ・ドリーナ・フラーティ ギタ

ー・石村隆行

主催 横浜能樂堂

薩摩琵琶・中村鶴城 マンドリン・ウエゴ・

オルランディ・ドリーナ・フラーティ ギタ

ー・石村隆行

主催 横浜能樂堂

チケットプレゼント有り

三千院 御懺法講奉修

（京都）

5月30日（月）午前11時 三千院門跡

声明付樂 演奏 平安雅樂会

伝統芸能の魅力 国立劇場

「雅樂を楽しむ」

（東京）

チケットプレゼント有り

6月4日（土）午前11時半開演（開場10時半、  
開演前に樂器体験あり）国立劇場小劇場

一般2500円、学生1800円

解説 雅樂を知ろう、左右舞樂の比較と鑑賞

「陵王」と「落蹲」 出演 伶樂舍

予約 4月11日、窓口販売4月12日より

問合せ TEL 0570-07-9900

漏刻祭 近江神宮

6月10日（金）午前11時

舞樂 納曾利

演出 女人舞樂原笙会

問合せ TEL 0797-23-1886

青葉まつり 高野山

6月14日（火）丹生都比賣神社

舞樂 納曾利 蘭陵王

演奏 平安雅樂会

6月15日（水）午前10時 大阪樂所第34回雅樂演奏会

（大阪）

チケットプレゼント有り

7月2日（土）昼の部午後2時 夜の部午後6時開演

3000円（チケットぴあ・劇場窓口）

国文樂劇場（大阪）

舞樂 平調音取 皇臺急 越殿樂残樂三返

講師演奏 平調音取 陪臤

大坂樂所第34回雅樂演奏会

（大阪）

チケットプレゼント有り

問合せ TEL 06-6214-8260

**星祭り** 師岡熊野神社 (神奈川)

(神奈川)

舞楽 未定 女人舞楽原笙会

7月3日(日) 午後7時

管絃 双調音取 賀殿急

舞楽 新鞆鞆 胡飲酒

演奏 横浜雅楽会

問合せ Tel 045-531-0150

近江神宮燃水祭

(滋賀)

7月7日(木) 午前11時

舞楽 曲目未定

出演 女人舞楽原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

東京樂所 第9回定期公演

七夕の雅楽 (東京)

チケットプレゼント有り

7月9日(土) 午後5時

S席 5000円 A席 4000円

東京オペラシティコンサートホール

管絃 壱越調音取 春鶯囀 蹤踏 遷陵頻急

酒胡子 舞楽(番舞) 承和樂 仁和樂

主催 AMATI

問合せ Tel 03-3560-3010

十二音会 第37回公演 (東京)

7月16日(土) 午後6時

全指定席 5000円

紀尾井ホール(大ホール)

舞楽 振鉢三節 納曾利 延喜楽

陵王 萬歳樂

問合せ Tel 03-3370-1913

『春日權現記』の舞 (愛知)

7月17日(日) 午後2時

名古屋能楽堂

舞楽 萬歳樂

演奏 南都樂所

夏祭 西宮神社 (兵庫)

7月20日(水) 午後7時半 8時半(2回)

舞楽 未定 女人舞楽原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

中村仁美筆築リサイタル葦の風 no.6

～西域の筆築日本の筆築～ (東京)

チケットプレゼント有り

7月22日(金) 午後7時

前売 3500円、当日 4000円

東京オペラシティリサイタルホール

堺越調子 胡飲酒・破

伊左治 直作曲 舞える笛吹き娘 ほか

演奏 中村仁美 石川高 八木千曉 池上英樹

笠松泰洋 佐々木冬彦

問合せ Tel 03-6804-7490

★★読者チケットプレゼント★★

☆伶楽舎雅楽コンサート 5月12日

四谷区民ホール 5名様ご招待

4月28日必着 招待券を送付

☆国立劇場 管絃 5月28日 2名様ご招待

5月14日必着 招待券を送付

☆国立劇場 雅楽を楽しむ 6月4日

2名様ご招待

5月21日必着 招待券を送付

★大阪樂所 7月2日 国立文樂劇場

5名様ご招待

6月18日必着 招待券を送付

★東京樂所 7月9日 東京オペラシティ 5名様ご招待

6月25日必着 招待券を送付

☆中村仁美筆築リサイタル 7月22日 東京オペラシティリサイタルホール

5名様ご招待

7月8日必着 招待券を送付

応募資格・「雅楽だより」定期購読者

応募方法・はがきに希望の演奏会・住所・氏名

電話番号など必要事項を記入。

応募先・〒188-0013 東京都西東京市向台町6-12-6 鈴木方

東京都西東京市向台町6-12-6 鈴木方

芝祐靖先生へ質問を

芝先生へ笛に関する質問をメールかFaxでお寄せください。お待ちしています。

新刊など

○『隋書』音楽志訳注

六朝樂府の会 編著 発行 2月26日

A5／570ページ 10800円

『隋書』音楽志訳注

南北朝から隋朝に至る音楽の変遷を記録した通史であり、そこには、南北・東西音楽の交流と融合、日本雅楽の淵源となる西域音楽の東漸、理想の楽をめぐる国家的論争、儀礼・祭祀音楽の式次第他、古代音楽の実態が克明に描かれる。

南北朝・隋 唐史研究のみならず、中国学全般、ひいては日本古代史、日中交渉史、東洋音楽史など、東アジアの学術史を理解する上で基礎史料である。本書は、中国古代音楽の事典的性質も備え、原文・書き下し文・現代語訳のほか、語注には、語句の出典・用例などを豊富に示し、音楽用語や歴史的背景についても詳細な解説を加えた。巻末には人名索引、楽曲・書名索引、事項索引を付す。

○『平安王朝の五節舞姫・童女 天皇と大嘗祭・新嘗祭』

「雅楽だより」第45号

2016(平成28)年4月1日

発行 雅楽協議会 「雅楽だより」編集担当

連絡先 〒188-0013 東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)

FAX: 042-451-8898 メール gsgakudayori@yahoo.co.jp

http://www.gsgakudayori@yahoo.co.jp

「雅楽だより」第45号

2016(平成28)年4月1日

発行 雅楽協議会 「雅楽だより」編集担当

連絡先 〒188-0013 東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)

FAX: 042-451-8898 メール gsgakudayori@yahoo.co.jp

http://www.gsgakudayori@yahoo.co.jp

「雅楽だより」第45号

2016(平成28)年4月1日

発行 雅楽協議会 「雅楽だより」編集担当

連絡先 〒188-0013 東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)

FAX: 042-451-8898 メール gsgakudayori@yahoo.co.jp

http://www.gsgakudayori@yahoo.co.jp

「雅楽だより」第45号

2016(平成28)年4月1日

発行 雅楽協議会 「雅楽だより」編集担当

連絡先 〒188-0013 東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)

FAX: 042-451-8898 メール gsgakudayori@yahoo.co.jp

http://www.gsgakudayori@yahoo.co.jp

「雅楽だより」第45号

2016(平成28)年4月1日

発行 雅楽協議会 「雅楽だより」編集担当

連絡先 〒188-0013 東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)

FAX: 042-451-8898 メール gsgakudayori@yahoo.co.jp

http://www.gsgakudayori@yahoo.co.jp



寄付のお願い

ご協力いただける方、寄付をお願い致します。

お振込は、購読料の口座へ、通信欄に「寄付」とご記入ください。

「雅楽だより」 購読料・継続申込み方法

郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、

【口座番号】 00140-5-614032

までお振込みください。ご記入頂いた住所に

「雅楽だより」を送らせて頂きます。

あとがき

東日本大震災から5年。まだ多くの人が避難したまま、問題は山積み。できることはしなければ。「雅楽だより」12年目です。

東日本大震災から5年。まだ多くの人が避

難したまま、問題は山積み。できることはし

なれば。「雅楽だより」12年目です。

東日本大震災から5年。まだ多くの人が避

難したまま、問題は山積み。できることはし

なれば。「雅楽だより」12年目です。